

◇ 行事報告 ◇

4月18日（日）摩利支天月例祭

本堂にて、読誦会と摩利支天様月例祭を執行いたしました。法話では、次のようなお話がありました。

新型コロナウイルスの変異種が広がって、岡山も収束の気配がなかなかありません。手洗いうがいの徹底をして日々生活していきましょう。

さて、本年は桜が例年より早く開花し、季節は春爛漫です。境内の牡丹も例年より早く大きな花を咲かせています。

この「桜」の語源ですが、「さ」と「くら」に分かれるそうです。「さ」は「田の神」を表し、「くら」は「神が来る、座られる」の意味があり、山桜が咲く頃に田の仕事、作業を始める目安とされたようです。

日本人は自然を大切にし、神様を身近に感じられる民族です。田んぼは、ある意味自然破壊なのですが、山里の自然と同化し、原風景として何の違和感もありません。「雷」でさえ「神鳴り」であり、一説では、「雷」の傍の「田」は、元は「申・もうす」で、「雷」を「天の声」と感じたのです。また秋の雷を「稲妻」と言い、稲が良く実るための「神鳴り＝天の声」だったのです。実際、椎茸は雷が落ちると沢山採れるのだそうです。

先ほど申し上げたように自然の一部を生活の為に壊して田にした訳ですから、収穫の一部を神に捧げて感謝しました。これが秋のお祭りになっていきました。「来年もよろしく願います」という気持ちが添えられていたのですね。これからも良い習慣が続いていくことを祈念いたします。

4月21日（水）グランドゴルフ大会

コロナ禍で、県宗務所主催の大会は中止されま



したが、庭瀬組寺対抗親睦大会は、参加人数制限、マスクの着用などをして、岡山ドームにて開催されました。

当山からは、3チーム11名が参加しました。Aチームが5位、Bチームが当日賞、CチームがBM賞と色取り取りですが、もれなく、賞をいただき、楽しい時間を過ごしました。



新型コロナウイルスが早く収束することを祈りつつ、次回も開催出来る事を楽しみにしています。次回は11月10日（水）の予定です。一緒に参加して、良い汗をかいてみませんか？

◇ 行事案内 ◇

摩利支天月例祭

6月18日（木）、7月21日（水）（変更しています。）午前10時より執行いたします。

当山では、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、本堂入り口にアルコール液を用意し、広い間隔での着座をお願いしています。ご参拝は、各自でご判断頂き、無理のないようお願いします。

また、状況により月例祭はお上人のみで行い、事前にお持ち頂いた摩利支天様のお厨子（御分霊）を御祈念、お呼び出しの形式で行う場合もございますので、ご了承ください。

◇ お知らせ ◇

花尻・妙見結社の解体

故長谷川妙政上人が守られていた、当山と同じ庭瀬組寺である「花尻・妙見結社」



が取り壊されることとなり、令和3年5月8日に日蓮宗宗務所長であられる大野上人により解体法要が執り行われました。地域で親しまれた堂宇が無くなるのは寂しいことです。

合 掌

（← 妙見結社の御法前の様子）